

# RICOH REPORT 2012

冬号

## Contents

### 1 トップメッセージ

5 決算レポート

### 7 事業紹介

▶ リコーのソリューション、サービスがIMF・世銀総会で活躍

9 リコーグループの環境経営

10 リコーグループのCSR

### 11 ニュースファイル

▶ 1955年発売の「リコピー101」が機械遺産に認定

▶ FA(Factory Automation)カメラ販売開始

▶ PENTAX Q10 向井理さんを起用した新CM放映開始

◀ 「リコーグループサステナビリティレポート2012」を発行

13 株主様Information

裏表紙 企業情報

## ○ 株主の皆様へ



取締役 会長執行役員

桜井 正光

代表取締役 社長執行役員

近藤 史朗

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2012年度第2四半期連結累計期間(2012年4月1日から2012年9月30日まで)の事業のご報告をするにあたりまして、皆様からのリコーグループに対するいつに変わらぬご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

2012年度第2四半期連結累計期間のリコーグループ連結売上高は、為替の円高影響などにより前年同期比2.3%減の9,174億円となりました。

当社株主に帰属する四半期純損益は、基盤事業の回復や構造改革の成果などにより、前年同期比205億円増加し純利益117億円となりました。

中間配当金は、2011年度期末配当金より4円増配の1株当たり12円50銭の配当金とさせていただきます。

2012年度の業績見通しにつきましては、売上高1兆9,000億円、当社株主に帰属する当期純利益330億円としております。

株主の皆様には、倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2012年11月

## トップ メッセージ

# 近藤社長に聞く 経営を取り巻く環境と 中期経営計画の進捗

代表取締役 社長執行役員

近藤 史朗

### 「経営環境に関する認識」

#### Q 内外経済の動きを どのように認識していますか。

日本は復興需要が期待できるものの円高や海外経済減速への懸念が継続しています。米州は雇用の回復が不十分であるなど企業行動に慎重さが見られます。中国をはじめとするアジアは成長が減速しています。欧州は債務問題が長期化するなど引き続き不透明な状況が続いています。

#### Q 市場の概況をどのように捉えていますか。

複合機やプリンターの台数集約、印刷枚数の管理などはお客様のご要望として定着しています。「モノ(製品の所有)」に加えて「コト(サービスの利用)」を重視する傾向が強まり、各種情報機器の所有とサービスの利用に関わる総費用の低減や生産性の向上に繋がる業務改善などが、お客様のご要望の中心になりつつあります。

プロダクションプリンティング市場は、景気減速の影響もあり一部で成長が鈍化していますが、全体では高い成長を見込んでいます。

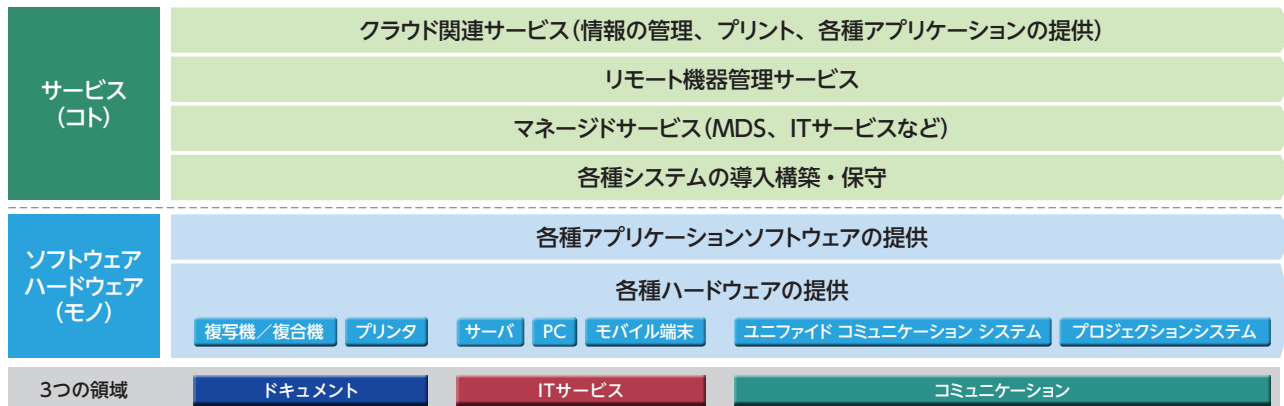
新興国市場は拡大が続いています。国や地域によってお客様が求める製品の性能やサービスの内容は多岐にわたり、各地の特性に応える事業活動を展開しています。

**Q デジタル化やネットワーク化の進展によりどのような影響が考えられますか。**

さまざまな情報がデジタル化され、ネットワークやクラウドコンピューティングなどに関する技術は進化を続けています。携帯情報端末によるコミュニケーションやインターネット利用が増大するなど、時間や場所といった行動の制約が狭まっています。

オフィスにおいては、情報量が増加するものの紙以外の媒体による情報の共有が拡大しています。紙とデジタルメディアによる相乗効果を高める製品やサービスの提供を通じて新しいコミュニケーションや働き方を創造したいと考えています。

**■ 3つの領域におけるモノ+コトによるお客様価値の提供**



**「第17次中期経営計画について」**

**Q 第17次中期経営計画(以下、17次中計)はどのような戦略を展開していますか。**

17次中計では基本戦略として「事業の創造と集中」と「高効率経営の実現」を掲げています。

「事業の創造と集中」に関しては、従来のドキュメントに加えて、ITサービス、コミュニケーションの3つの領域におけるモノ(製品)とコト(サービス)を組み合わせることで、お客様へ提供する価値を増大しています。スマートフォンやタブレット型パソコンといった情報機器と複合機やプロジェクターなどの連携機能を強化するとともに、マネージド・ドキュメント・サービス(MDS)\*やITサービスを充実させています。

(こうしたモノ+コトの事例をP.7~P.8にてご紹介しております。)

またプロダクションプリンティング事業については、販売・保守サービス体制を再編し、商品群を拡充しています。さらに新たな領域として、サイネージ(広告/ポスター)やラベル印刷用途に対応した広幅サイズのインクジェットプリンターを発表しました。

最後に新興国市場に関しては、事業拡大を加速したいと考えています。中国市場向けに現地で開発したA4複合機の発売、ベトナムにおける販売会社の設立、インドにおけるIT分野の研究会社やサーマルメディア事業の現地法人の設立など、より積極的に事業を展開しています。

**\*マネージド・ドキュメント・サービス(MDS)**

お客様の文書に関わる運用管理業務を受託し、コスト削減と生産性向上を実現するサービスです。さらには、文書の作成、活用、保管などの業務を可視化、分析し、改善を提案することで、お客様の抱える課題を解決に導きます。

**Q 「高効率経営の実現」はどのように展開していますか。**

厳しい経営環境下においても安定して業績を達成し、さらなる成長へ向けた強靱な経営体質を築くために、リ



コーグループ全体で数々の施策を進めています。

経費の削減、重複する機能の解消、人員配置の見直しに加えて、あらゆる業務を対象にそのあり方を抜本的に見直しています。また「販売体制の効率化」、「生産拠点の統廃合」、「不採算事業の見直し」、「人員配置の見直し」、「グローバル集中購買の促進」、「開発手法の改革」などの構造改革を断行しています。

**Q 17次中計ではどのような目標値を設定していますか。**

こうした戦略を確実に実行し、17次中計の最終年度には、次の目標を達成したいと考えています。

**■ 業績目標値(2013年度)**

売上高	2兆1,000億円以上
営業利益	1,500億円以上
営業利益率	7.1%以上
ROE	10.0%以上
FCF	+1,000億円以上
総還元性向(配当+自社株)	約30%
為替レート	\$=¥75.00、euro=¥105.00

記載されている計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、2012年5月22日会社説明会時点です。入手可能な情報に基づく、将来の業績に関する見通しです。

## 「2012年度における取り組みについて」

### Q 2012年度はどのような経営方針ですか。

17次中計の2年目にあたる2012年度は、まずは迅速に業績を向上させるために、基盤事業であるプリンティング領域の収益力強化に注力します。また、リコーグループが中長期的に成長するため、基盤事業以外の新たな収益の柱の確立を目指します。

### Q 具体的にはどのような取り組みをしていますか。

効率化と強化に向けた経営体質改造のための施策を加速しています。例えば、設計および生産機能を強化するために、国内の生産関連会社における複写機/複合機をはじめとした画像関連機器の設計・生産機能およびリコーの同機能の一部を、2013年4月を目途に設立される新設計会社と新生産会社にそれぞれ集約する予定です。

### Q どのように基盤事業の収益力を強化するのですか。

基盤事業の周辺に位置する事業機会を取り込みます。特に海外におけるITサービスやMDSを強化しています。その一環として2012年6月にドイツのITサービス会社であるADA-Das SystemHaus GmbHの事業を買収し、またプロダクションプリンティング事業においては、2012年8月に米国の印刷に関連するソフトウェア会社であるPTI Marketing Technologies, Incに出資しました。



### Q 新たな収益の柱をどのように確立するのですか。

オフィス市場、産業市場、コンシューマー市場を重点領域と捉え、既存事業との相乗効果を活かしながら、効率的に新規事業を育成しています。

オフィス市場においては、コミュニケーションや働き方に変革をもたらすプロジェクトシステムやユニファイド コミュニケーション システム、省エネルギーに大きな効果をもたらすLED照明などの製品・サービスを強化しています。

産業市場においては、FAカメラ(P.11でご紹介)やRFID(無線表示タグ)に記録された情報を温度のコントロールによって表示したり消去したりできるリライタブルハイブリッドメディアなどの光学や感熱技術に基づいた高度な機能部品・材料を開発しています。

最後にコンシューマー市場に向けては、デジタル一眼レフカメラやコンパクトカメラの製品ラインアップを拡充するとともに、画像や映像の新しい活用方法や楽しみ方の創造を目指しています。

## 連結業績の概況

東日本大震災の復興需要等により、回復傾向が見られたものの、長引く円高や欧州経済停滞の深刻化、中国をはじめとする新興国における成長の減速など、リコグループを取り巻く環境は依然として予断を許さない状況が続きました。

連結売上高は前年同期に比べ2.3%減少し、9,174億円となりました。対米ドルおよび対ユーロの平均円レートはそれぞれ79.43円、100.66円となり、これら為替変動による影響を除く試算では、前年同期に比べ0.6%の増加となりました。

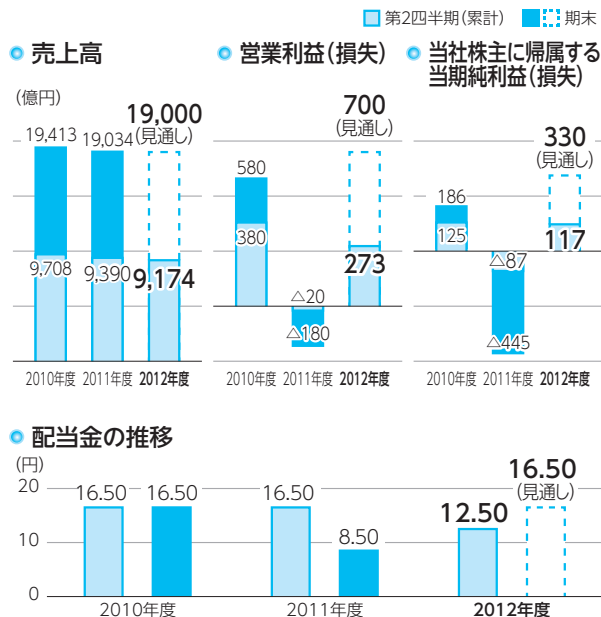
売上総利益は、継続的なコストダウンの成果やペンタックスリコーイメージング社が加わった影響はあるものの、主に円高の影響により、前年同期に比べ3.2%減少し3,744億円となりました。販売費および一般管理費は、グループをあげて取り組んでいる構造改革活動の成果が大きく寄与し、前年同期に比べ10.8%減少し3,470億円となりました。

以上の結果、営業利益は前年同期に比べ293億円増加し、273億円となりました。また、当社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ205億円増加し、純利益117億円となりました。

### ● 主要連結財務データ

科目	2010年度		2011年度		2012年度	
	第2四半期(累計)	通 期	第2四半期(累計)	通 期	第2四半期(累計)	通期見通し
売上高合計	9,708	19,413	9,390	19,034	9,174	19,000
うち海外	5,317	10,665	5,045	10,170	4,867	10,130
営業利益(損失)	380	580	△20	△180	273	700
税金等調整前当期純利益(損失)	280	441	△97	△319	244	625
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	125	186	△87	△445	117	330
設備投資額	395	668	368	732	413	790
研究開発費	539	1,105	597	1,190	547	1,170
総資産	23,430	22,555	21,869	22,893	22,185	—
株主資本	9,278	9,252	8,617	8,227	8,013	—
株主資本比率(単位:%)	39.6	41.0	39.4	35.9	36.1	—
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)(単位:円)	17.24	25.68	△12.12	△61.42	16.15	45.51
1株当たり株主資本(単位:円)	1,278.84	1,275.31	1,187.78	1,134.64	1,105.21	—
1株当たり配当金(単位:円)	16.50	33.00	16.50	25.00	12.50	29.00
(ご参考)						
為替レート(US\$)	89.03	85.77	79.82	79.08	79.43	77.22
為替レート(ユーロ)	114.14	113.28	113.94	109.05	100.66	100.33

(注) 1. 当社の連結財務諸表は米国会計基準に基づいて作成しております。  
 2. 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)は期中平均株式数により計算しております。  
 3. 一部子会社の決算期変更を行ったため、2010年度および2011年度の実績を遡及修正表示しています。



## ● 部門別売上高

■ その他分野  
723億円 7.8%

その他分野の売上高には、ペンタックスリコーイメージング社が加わり、前年同期に比べ22.3%増加し723億円となりました。

■ 産業分野  
474億円 5.2%

サーマル事業の売上高は増加しましたが、半導体事業や電装ユニット事業で減少し、前年同期に比べ6.2%減少し474億円となりました。

■ 画像&ソリューション分野  
7,976億円 87.0%

売上高は前年同期に比べ3.8%減少し7,976億円となりました。

● オフィスイメージング  
6,262億円 68.3%

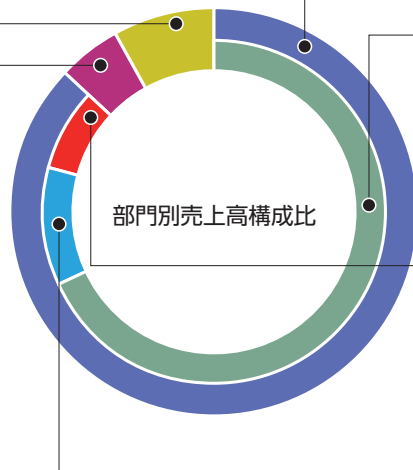
複写機、複合機においてカラー機、モノクロ機ともに前年同期に比べ減少しました。レーザープリンターにおいてはモノクロ機の売上が伸長しましたが、カラー機は減少しました。

● プロダクションプリンティング  
694億円 7.6%

カットシート機を中心に国内では増加しましたが、海外では為替の影響等により減少し、前年同期に比べ4.6%減少し694億円となりました。

● ネットワークシステムソリューション  
1,019億円 11.1%

ITサービスなどが主に海外で伸長したことにより、前年同期に比べ3.9%増加し1,019億円となりました。



## ● 地域別売上高

■ 日本 4,307億円 47.0%

画像&ソリューション分野、産業分野で減少、その他分野はペンタックスリコーイメージング社が加わった影響により増加しました。結果として前年同期に比べ0.9%の減少となりました。

■ その他 652億円 7.1%

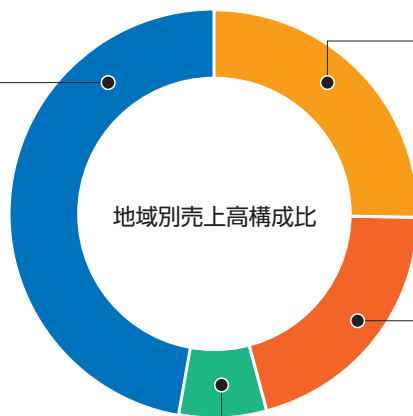
その他には中国、東南アジア、オセアニアといった地域が含まれております。前年同期に比べ4.8%の増加となり、為替影響を除くと7.6%の増加となりました。

■ 米州 2,343億円 25.5%

前年同期に比べ横ばいとなりましたが、為替影響を除くと0.5%の増加となりました。

■ 欧州・中東・アフリカ  
1,871億円 20.4%

著しい円高ユーロ安への為替移行と欧州経済の不透明な状況を反映し、前年同期に比べ10.0%の減少となりましたが、為替影響を除くと1.8%の増加となりました。





## リコーの ソリューション、サービスが IMF・世銀総会で活躍

48年ぶりに東京での開催となった第67回国際通貨基金・世界銀行年次総会(IMF・世銀総会)は、東日本大震災からの力強い復興、テクノロジーで支える日本経済の底力を世界から集まる約2万人の参加者に感じていただく大舞台となりました(2012年10月9日~14日)。リコーグループは、ドキュメント・ITサービス・コミュニケーションの3分野を組み合わせ、さらに新規・基盤事業のシナジー効果を発揮。製品(モノ)が持つ先進的なテクノロジーと、付加価値の高いサービス(コト)の提供により、効率を追求した会議運営をワンストップで支援しました。

### 1 マルチプロジェクションシステム

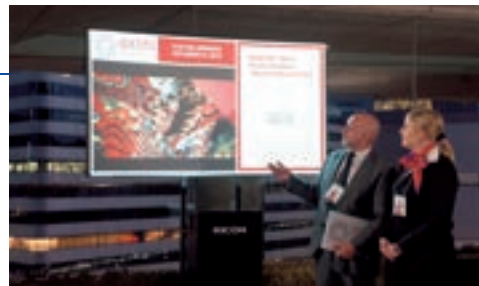
超短焦点プロジェクターを3台連動させ、大掛かりな工事を行うことなく、横幅3.84メートルの大画面で迫力のある映像投影を実現したソリューション。効果的な演出で来場者の目を引きました。



レセプション会場の入口に設置された大画面マルチプロジェクション

### 2 デジタルサイネージ

コンパクトな超短焦点プロジェクターを活用することで、設置工事にかかる手間やコストをかけずに限られたスペースを活用。また、ガラス面をスクリーンにするなど、会場のいたるところで効果的な表示で総会をサポートしました。4会場の約50ヶ所に設置されたサイネージには、ネットワーク経由でリアルタイムに情報が配信され、有効な情報発信を可能としました。



設置場所を選ばないデジタルサイネージ



### 3 バーチャルヘルプデスク

ユニファイド コミュニケーション システムと超短焦点プロジェクターを組み合わせ、遠隔のオペレーターと対面して質問ができる省スペースのヘルプデスクを4会場に設置。オペレーターが行き先案内などの情報をヘルプデスクの画面に表示したり、ヘルプデスクのプリンターに出力するサービスも同時に提供しました。



#### NEWS

"未来を示唆するデザイン"  
として2012年度グッドデザイン賞  
「グッドデザイン・ベスト100」に  
選ばれました。



超短焦点プロジェクター  
[IPSIO PJ WX 4130N]



「ユニファイド コミュニケーション  
システム P3000」



### 4 ドキュメント出力環境の整備・運用管理サービス

環境に配慮されたリコーのデジタル複合機とプリンター、合計約750台を提供しました。効率的なドキュメント出力環境を実現するために最適な機器を配置し、会期中、運営品質の維持・改善と保守サポートを24時間体制で実施。グローバルな情報共有と発信を支えました。



各国の記者が利用した24時間稼働のプレスセンター

### 5 ペーパーレス会議ソリューション

専用サーバーから、会議参加者のiPad\*に資料を配信し、発表者と参加者のiPad上の資料が同期するシステム。

iPad用ペーパーレス会議アプリケーション[RICOH Smart Presenter]を活用し、100人規模のペーパーレス会議を実現しました。

\*iPadはApple Inc.の商標です。



万全を期して、実際の会場で、  
会議参加人数100人を想定した  
リハーサルを実施

# 経営のあらゆる側面に環境の視点を取り入れ、 環境保全活動と経営活動を同軸で捉えています。

## 皮膚へのアレルギー性を大幅に低減した 光硬化型(UV)インクジェットインクの開発に成功

皮膚のかゆみやかぶれなどのアレルギー性皮膚炎を引き起こす皮膚感さ性\*を大幅に低減した光硬化型(UV)インクジェットインクの開発に成功しました。

光硬化型インクジェットインクは光を照射すると瞬時に硬化することから、速乾性が求められる用途や染み込みにくい素材に印刷する用途などに有効で、プラスチックカードや電車・バスのラッピング広告、家電製品への印刷など身近なところで利用されています。しかし、光硬化型インクジェットインクは光照射前の液体状態において皮膚感さ性についての改善が望まれていました。

リコーは従来の光硬化型インクジェットインクのコストや性能を維持しつつ、皮膚感さ性の原因となる材料を使用しないことで人体への安全性を向上させました。

\*腫れ・かぶれ・かゆみといった皮膚の炎症(アレルギー性接触皮膚炎)を発生させる性質のこと。

▶Web: <http://www.rioh.co.jp/about/company/technology/tech/049.html>

## 環境性能を追求したモノクロ高速複合機を発売

imajio MP 6002GP

事務機業界で初めて\*1 100%鉄スクラップを原料とする電炉鋼板を部品の一部に採用したデジタルモノクロ高速複合機「imajio MP 9002/7502/6002/6002GPシリーズ」を2012年7月に発売いたしました。これまで電炉鋼板は、強度特性を重視する建築用として利用されることが大半でしたが、東京製鐵株式会社との共同開発により、複合機で求められる薄板化(厚さ2mm以下)や電気伝導性、加工性などの面で品質性能を確保し、複合機への採用を可能にしました。

また、「imajio MP 6002GP」は、トナーにバイオマス由来の原材料を使用したバイオマストナーの採用により、通常のトナーに比べ、トナーの廃棄焼却時のCO<sub>2</sub>排出量を約26%削減\*2します。

リコーは、持続可能な社会の構築に向け、地球から新たに採取する資源を2050年までに2007年比で87.5%削減する目標を掲げており、電炉鋼板やバイオマストナーを採用する本取り組みも新規投入資源量削減に向けた重要な活動のひとつと位置づけています。

\*1 2012年7月5日現在。 \*2 リコー調べ。

▶Web:電炉鋼板開発者座談会 [http://www.rioh.co.jp/about/company/technology/voice/f\\_runner/fr12/](http://www.rioh.co.jp/about/company/technology/voice/f_runner/fr12/)



# リコーグループの東日本大震災復興支援活動が「IAUDアワード2012 “寛仁親王賞”」を受賞

リコーグループが実施してきた東日本大震災復興支援活動がIAUD(国際ユニヴァーサルデザイン協議会)の主催するIAUDアワード2012で、最も名誉ある「寛仁親王賞」を受賞いたしました。この賞はIAUD総裁であった寛仁親王ご自身が、生前、特別な思いをこめて、東日本大震災被災地の復興支援活動に対して設けられたものです。

リコーグループは、グループ全体で連携し、特に「自治体および被災者、それらで形成されるコミュニティの支援」と「その地域の将来を担う次世代の育成」に重点を置き、被災地の早期復興を目指して継続的な支援に取り組んできました。

今回の受賞にあたっては、リコーグループが企業の社会的責任を果たし、身体的・精神的に被災された方が必要としていることへの深い理解と創造力をもって、さまざまな活動に取り組んでいることが評価につながったという審査委員長のコメントをいただきました。



10月14日、福岡国際会議場での表彰式

## ● リコーグループ震災復興支援の主な活動



**コミュニティ巡回型  
情報プリントサービス**  
～一人ひとりに届くサービスを心掛けて～



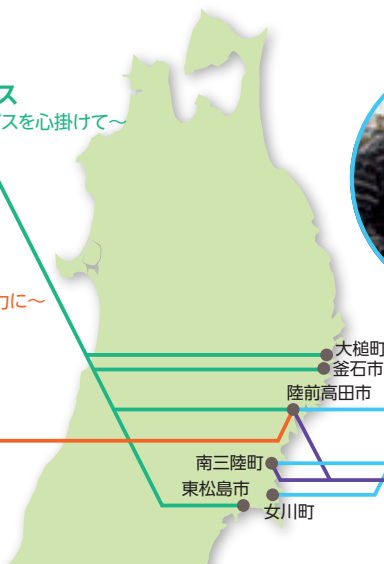
**学生復興会議**  
～高校生の発想を復興の力に～



**セーブ・ザ・メモリー プロジェクト**  
～かけがえのない思い出の写真を持ち主の元へ～



**社員による支援**  
～被災地へのお役立ちと学び～



▶活動の詳細はリコーCSRサイト <http://blog.ricoh.co.jp/shinsai/>

## 01 1955年発売の「リコピー 101」が機械遺産に認定

1955年に発売した卓上複写機「リコピー 101」が、一般社団法人日本機械学会が認定する「機械遺産」第54号として認定\*されました。

リコーは、1977年に業界で初めてオフィスオートメーション(OA)を提唱し、その後の複写機、プリンター、ファクスや、現在の複合機など、事務機器の発展に大きな役割を果たしてきています。このOA機器のさきがけとなったのが、国内初の露光(焼付け)・現像一体型の卓上型ジアゾ湿式複写機「リコピー 101」です。1分間に5枚相当の複写が可能でした。

当時、一般的にジアゾ感光紙は現像にアンモニアガスが使われ、装置も大型でした。リコーが独自開発した湿式現像を可能とするジアゾ感光紙と現像液により、無臭かつ小型の画期的な複写が実現でき、オフィスの机上で活躍しました。「リコピー 101」、ならびにそのシリーズ製品により、オフィスにおいて事務文書や伝票の複写が転記ミスへの心配もなく手軽にできるようになり、事務の効率化を妨げてきた手書きの写し作業が大幅に軽減されました。1950年代後半、複写の代名詞として「リコピーする」という言葉が生まれ、広く普及しました。そのルーツが、「リコピー 101」です。

\*8月7日、日本学士院講堂にて、一般社団法人日本機械学会が定める「機械遺産」の認定表彰式が行われ、「リコピー 101」が認定表彰を受けました。



リコピー101(木製)



リコピー101を使用する社員(昭和31年当時)



FV-L500B1(カメラ)と  
FL-CC0814-5M(レンズ)

## 02 FA(Factory Automation)カメラ販売開始

製造メーカー各社はさらなる競争力の優位を目指し、一層のコスト削減と生産性向上、品質向上を追求しています。また、生産される製品の小型・微細化に伴って、新しい素材の投入も進み、生産ライン上の製品検査や、位置決めを人に代わって行うFAカメラに求められる仕様は、ますます高度化しています。リコーは、工場における多種多様な検査ニーズにお応えして、FAカメラとして、500万画素撮像素子を採用した高性能かつコンパクトタイプの「FV-L500B1」をはじめとする5機種、レンズとして、500万画素対応の高精細近接撮影が可能な「FL-CC0814-5M」をはじめとする14機種を今夏発売しました。幅広いラインアップをそろえ、カメラ本体とレンズを組み合わせることで、ニーズにきめ細かく対応し、お客様の生産性の向上にお役立ちします。

## 03 PENTAX Q10 向井理さんを起用した新CM放映開始



デジタル一眼の性能をそのままに、圧倒的な小型軽量化を実現したレンズ交換式デジタル一眼カメラ「PENTAX Q10」の発売に合わせ、向井理さんを起用した新TVCMを10月26日から全国で放映開始しました。

向井さんの起用はリコーの「CX6」、「PENTAX K30」に続き3度目。いつも持ち歩いて思いのままに撮影できる手軽さ、レンズ交換の楽しさ、写真の深みを味わえる高品質を兼ね備えた“「世界最小ワラス\*」×「こだわりの高品質」という、新しいスタイルのデジタル一眼カメラの楽しみ方を向井さんがスタイリッシュにプレゼンテーションしていきます。

なお、製品ホームページ(<http://www.pentax.jp/japan/products/q10>)でCMの映像を公開しています。

\*2012年10月1日現在、レンズ交換が可能なデジタルカメラにおいて(ペンタックスリコーイメージング(株)調べ)



PENTAX Q10(レギュラーカラー3色と交換レンズ)



選べるカラー100色(97色はオーダーカラーで受注生産)

## 「リコーグループサステナビリティレポート2012」を発行

リコーグループは、「社会的責任経営報告書」、「環境経営報告書」、「アニュアルレポート」を統合した「リコーグループサステナビリティレポート2012」(日本語版)を11月1日に発行いたしました。

昨年度までは、経済、社会、環境の3つの側面から「アニュアルレポート」、「社会的責任経営報告書」、「環境経営報告書」を発行し、それぞれの観点で情報開示を行ってきました。

このたびの報告書統合化の背景は、地球環境問題やコーポレートガバナンス、人権への配慮などのさまざまな要素が企業活動に大きな影響を及ぼしているため、ステークホルダーの皆様が、企業を評価する上で、財務情報だけではなく「環境」「社会」「ガバナンス」などの非財務情報を必要としていること、さらに、企業活動の全体を俯瞰できるように財務情報と非財務情報を統合した情報開示への要望が高まっていることに応えるものです。

「リコーグループサステナビリティレポート2012」 web : <http://www.ricoh.co.jp/about/sustainability/>

\*「Clickable Paper™」について <http://www.ricoh.co.jp/software/tamago/clicker>



紙面をスマートフォンやタブレットPCのカメラで撮影することで、インターネットにて詳細な情報の入手が可能な独自技術「Clickable Paper™」にも対応しています。

## ■株主様向け企画のご報告

リコーでは、株主の皆様へ当社に対するご理解を深めていただくため、株主の皆様とのコミュニケーションを図る企画を開催しております。



### 市村自然塾見学会

満足度100%

良かった 100%



5月12日および11月3日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様（各23名、11名）をご招待し、「市村自然塾 関東」（神奈川県）の見学会を実施いたしました。当日は、本社に集合しバスで自然塾へ移動し、食堂にて塾生たちとともに昼食をとりました。

その後、枝村塾頭より自然塾の概要説明を受け、塾舎および周辺を見学し、最後に農作業に精を出す塾生たちをご覧になりました。株主の皆様からは、「とても有意義な活動だと思います。生き生きとした子供たちの姿を見ていると農作業だけでなく、自然・宇宙・価値観についても多く学べるのではないかと思います。」「子供たちの一生懸命に取り組む姿がとても印象に残りました。今後もぜひ続けてください。」といったご感想を頂戴しております。



### リコーフィル演奏会

満足度98.1%

良かった 98.1%

どちらでもない 1.9%

7月15日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様（ペア153組298名）を「リコーフィルハーモニーオーケストラ第52回演奏会」（神奈川県）にご招待いたしました。

株主の皆様からは、「リコーフィルの演奏を聴くことができ、リコーをより近く感じられました。」「熱意のある演奏で癒されました。良い演奏会でした。」「社内での文化活動の一部を見れた様でした。」といったご感想を頂戴しております。



### ラグビー観戦会

満足度98.8%

良かった 98.8%

どちらでもない 1.2%

10月6日（東京都：福岡サンニックスブルース戦）および21日（神奈川県：キャノンイーグルス戦）、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様（各ペア247組464名、ペア80組157名）をリコーラグビー部BlackRamsの試合にご招待いたしました。当日は株主の皆様のご声援により、各試合50対17、35対17で勝利を飾ることができました。

株主の皆様からは、「ラグビーには全く縁がなかったが、お蔭さまでラグビーの面白さを知りました。リコーファンを増やす良いIRと思います。」「社員一丸となって応援している様子に感動した。」「参加型イベントは単に物品を優待するよりも会社との繋がりをを感じる。今後も続けてください。」といったご感想を頂戴しております。



\*株主様向け企画は、単元株式ご所有の株主様のみを対象とさせていただきます。

## WEBサイトのご案内

当社では、最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。

<http://www.ricoh.co.jp/>

リコー 検索

IR/財務情報  
CSR経営  
環境経営  
ニュースリリース

サステナビリティレポート

## 今後のIRスケジュール(予定)

当社では迅速かつ正確な情報開示を心がけるほか、投資家の皆様に向けたさまざまな活動も行っています。以下は当社の今後のIRスケジュールになります。ご参考の上、引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

なお、予定は予告なく変更される場合がございます。



### 電子ブック版報告書

1年に2回、株主の皆様のお手元にお届けしている「RICOH REPORT」をホームページ上に電子ブックで掲載しています。



## 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで

**定時株主総会** 毎年6月下旬

**基準日** 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

**郵便物送付先(電話照会先)** 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社  
証券代行部  
TEL(0120)782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の  
全国各支店で行っております。

### ●住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

# 企業情報 (2012年9月30日現在)

## 会社の概況

商号 株式会社リコー  
RICOH COMPANY, LTD.  
本店所在地 東京都大田区中馬込一丁目3番6号  
Tel. (03) 3777-8111  
設立 昭和11年2月6日  
資本金 1,353億6,478万9,556円  
上場取引所 東京、大阪、名古屋、福岡、札幌、パリ  
従業員数 9,975名

## 株式の状況

発行可能株式総数…………… 1,500,000,000 株  
発行済株式総数…………… 744,912,078 株  
株主数…………… 47,372 名

## 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	76,790	10.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	76,663	10.6
日本生命保険相互会社	36,802	5.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	28,807	4.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	21,574	3.0
日本興亜損害保険株式会社	18,198	2.7
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	18,001	2.5
公益財団法人新技術開発財団	15,840	1.7
リコー持株会	12,571	1.4
東京海上日動火災保険株式会社	9,894	1.3

(注) 1.上記のほか、自己株式が19,845千株あります。  
2.当社への出資には、上記以外に日本興亜損害保険株式会社(日本マスタートラスト信託銀行株式会社に信託財産として委託している当社株式1,000千株(0.1%)があります。当該株式は、日本マスタートラスト信託銀行株式会社が株式名義人となっておりますが、議決権行使については日本興亜損害保険株式会社が指図権を留保しております。  
3.持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号  
TEL (03) 3777-8111



この報告書は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認証されました。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

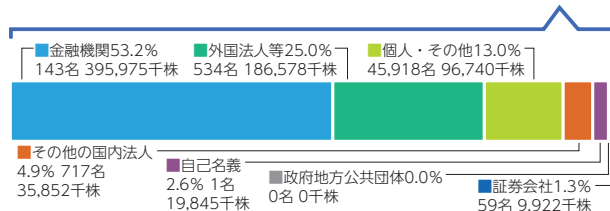
## 取締役および監査役の状況

取締役	桜井正光	取締役(社外)	梅田望夫
★取締役	近藤史朗	☆取締役(社外)	野路國夫
★取締役	三浦善司	常任監査役(常勤)	井上雄二
取締役	小林博	監査役(常勤)	篠田光弘
取締役	佐々木志郎	☆監査役(社外)	湯原隆男
取締役	稲葉延雄	☆監査役(社外)	柚木司
取締役	松浦要蔵		
取締役	山下良則		
取締役	佐藤邦彦		

(注) ★は代表取締役を示しております。  
☆は独立役員を示しております。  
\*「取締役および監査役の状況」のみ、2012年11月5日現在

## 株式の所有者別状況の推移

	2010年度	2011年度	2012年度 当第2四半期	
金融機関	株主数(名)	167	146	143
	株式数(千株)	359,422	360,239	395,975
外国法人等	株主数(名)	562	523	534
	株式数(千株)	240,458	220,065	186,578
個人・その他	株主数(名)	44,242	45,150	45,918
	株式数(千株)	69,970	84,101	96,740
その他の国内法人	株主数(名)	752	724	717
	株式数(千株)	34,402	35,943	35,852
自己名義	株主数(名)	1	1	1
	株式数(千株)	19,409	19,831	19,845
政府地方公共団体	株主数(名)	1	0	0
	株式数(千株)	0	0	0
証券会社	株主数(名)	85	70	59
	株式数(千株)	21,249	24,733	9,922
合計	株主数(名)	45,810	46,614	47,372
	株式数(千株)	744,912	744,912	744,912



## 株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号  
TEL (03) 3777-8111



この報告書は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認証されました。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。